

【高校生への介護体験、認知症サポーター養成講座実施】

★取り組みについて

若者の福祉、介護、認知症への理解とイメージアップを図るため実施。

平成 26 年から今の形で年 1 回続けている。

介助の方法には根拠があること、持っている力やその人らしさを大事にしたクリエイティブな仕事であることを伝えるよう工夫してお話している。

★取り組みを行って

生徒さんからの感想

「将来自分もここなら入りたいと思いました。」

「自分の祖母をサポートする時に教わったことを
やってみたい。」

「自分の身内に認知症になりそうな人がいるので、
対応をもう一度考え改めてみようと思う。」



【奥尻町いきいき福祉フェアへの協力】

★取り組みについて

町内小中学生対象の高齢者・障がい者疑似体験コーナーのブースで啓発活動を年 1 回続けている。

★取り組みを行って

生徒さんからの感想

「困っている人がいたら声をかけてみようと思う。」



【地域健康啓蒙講座（ドクターセミナー）】

★取り組みについて

法人内外の様々な専門ドクターに依頼し、地域住民の方に医療情報の提供とアドバイスを発信する。

★取り組みを行って

通常の受診ではなかなか聞けない専門的なドクターの話を聞けるということで、地域の方に大変好評いただいている。

【出張出前講座】

★取り組みについて

法人が持つ介護福祉に関する知識や技術を、広く地域住民に提供し、地域福祉の向上に努める。

★取り組みを行って

法人が持つ介護福祉の知識を地域に広げる取組を行っている。中学校での介護実体験コーナーをはじめ、最近では【終活講座】が人気。

【中学校の職業体験教育への協力】

★取り組みについて

中学生の職業体験は、参加した生徒に行事の手伝いや車いすの操作・試乗体験等を通じ、施設の役割等を理解してもらう取り組みです。

★取り組みを行って

近隣の学校からの要請を受入れる形で始まり、子供たちが利用者や職員と身近に接してもらうことにより、高齢者や介護施設に対する理解を深め、教育的な意味での成長に役立てていただいています。

【「介護保険体験セミナー」の開催】

★取り組みについて

地域の高齢化が急速に進んでいることを踏まえ、積極的な地域貢献活動の一環として、地域住民の方々に対し、施設の専門職等が、介護や介護保険制度等に関する詳しい情報を、体験的に学ぶことができる機会を提供する取り組みです。（毎年2回程度開催）

★取り組みを行って

社会福祉法人に対し社会貢献、地域貢献への積極的な取り組みが求められてきたことを踏まえて、平成27年度から事業を開始しました。開始当初は施設内の研修室を会場に開催しましたが、参加者が限定される傾向から、自家用車でも参加しやすいよう、平成30年度から地域の大きな集会施設を使用し、出前型で開催しています。平成30年度は、認知症への対応をテーマに開催し20名の地域住民の参加を得ました。

【健康教室の実施】

★取り組みについて

平成 12 年より健康に関して、医学的見地から様々なテーマで講演を行っております。
(道民カレッジ提携講座となっております。)

★取り組みを行って

平成 24 年より院内の糖尿病チームが、外来者、入院患者のご家族、地域の方々を対象に糖尿病に関する食事や薬などについて講演しております。



【認知症予防運動プログラム「コグニサイズ」普及啓発活動】

★取り組みについて

「コグニサイズ」普及啓発活動は、国立長寿医療研究センターが開発した、認知課題（計算、しりとりなど）組み合わせた、認知症予防を目的とした取り組みの総称です。

運動で体の健康を促すと同時に、脳の活動を活発にする機会を増やし認知症の発症を遅延させることです。

★取り組みを行って

当法人職員が研修に参加し、修了したのを機に、介護予防教室において実施しています。

まずは、研修修了者により法人内において職員の養成を行うことになり、選抜された職員に集まっていたいただき実践研修を数か月かけて行いました。

10名程度の職員が内容をマスターしました。

主な開催場所は、富良野市養護老人ホーム寿光園の地域交流ホールにて行っています。



身体を使った運動をしながら、同時に頭を使うことで認知症の予防を目的としたプログラム構成となっており、笑いが絶えない教室となっています。

地域のお年寄りをはじめ、入所されているご利用者、職員も加わり1回の定員は約30名としています。また、近隣町村からも教室開

催の依頼があり、職員が出前出張も行っています。

富良野市の介護予防教室のメニューになっていることもあり引き続き実施していきます。

【町中学生職場体験学習の協力事業所としての受け入れ】

★取り組みについて

この取り組みは、毎年町教育委員会が中学生徒へ働くことの楽しさや厳しさ、自分の将来を見つめる機会を図る目的で自らが希望する企業へ出向き、体験をします。当事業所は約 40 事業所の一員として受け入れの協力をさせて頂いています。

★取り組みを行って

事業所開設当初、地域とのつながりを図る取り組みの中、中学生職場体験学習の実施を知り、当事業所としても、学生達が福祉について知るきっかけとなる良い機会と捉え協力させて頂いています。

生徒が職場体験とあわせ、障がいをもつ方と共に日中活動を行う中でノーマライゼーションという福祉の基本理念に少しでもふれることができる時間になればと思っています。



【地域の小中高校生の体験学習受入】

★取り組みについて

地域の小中高校生に高齢者と関わる機会を持ったり、特養の仕事に触れて貰い、高齢者福祉の理解を促すと共に福祉に興味を持って貰うことを目的としています。

★取り組みを行って

地域の小中高校からお声をいただき、積極的に受入れするようになりました。利用者の方々も喜ばれ、また生徒にとっても高齢者福祉を学び、実際に体験する良い機会になっていると思います。



【小中学生を対象にした出前講座（実施予定）】

★取り組みについて

講義と介護体験キットを使用した体験を行う事により、障がいがある方・高齢者の身体状況・気持ちを理解して貰い、障がい者・高齢者との関わる時の注意点等を学ぶことを目的としています。

福祉人材の減少により、職員の不足が顕著に見られるようになり、福祉に興味を持ち、職業として関わろうと思ってくれる人材を増やすため、福祉に関する体験講座を開催しようと考えています。

【福祉教育のための施設開放】

★取組みについて

この取組は、地域の小学生との交流及び介護体験の機会提供を目的としています。

6/8 ～地域の小学校6年生の「総合的な学習の時間」にて、施設の生活相

談員、介護員各1名が学校へ赴き、介護体験の事前学習を行いました。

7/3.4～体験当日は施設を開放し、車椅子での車両移乗体験、入浴介助、とろみ茶

試飲等の体験を通じて、高齢者介護の概念を知って頂き、子供たちの興味と知識に繋がれたと考えています。

★取組みを行って

地域小学校における総合学習授業への協力として職員の派遣と介護体験の為の施設開放を開始してから毎年恒例開催となっています。福祉への理解を広げる活動を通じて、施設としても社会貢献の機会とさせていただきます。

【役職員研修等を市内社会福祉法人に開放】

★取組みについて

社会福祉法人の公益的取組を推進するプラットフォームを構築することを目的とした取組です。

★取組みを行って

平成28年度に市内社会福祉法人に公益的な活動に関する実態調査を実施。併せて、社会福祉法人制度改革に関する法人役員等研修を市内社会福祉法人に開放。平成29年度は豊中市社協の勝部麗子氏を招いて講演会、平成30年度は高知市社協の吉岡諄一会長及び高知市生活支援相談センターの上岡篤史生活支援相談員を招いて生活困窮者自立支援セミナーを開催。社会福祉法人の互いの活動の活性化につながる事業として、今後も計画的に実施します。

【社協職員・ボランティア登録団体（個人）による出前講座・出前披露】

★取組みについて

この取組みは福祉施設や学校、町内会等から、福祉の分野に特化した講師派遣の要望が多くあったことから、「福祉」に関連した講師を無料（一部有料）で派遣する事業として、平成25年度より開始しています。

その中でも福祉施設からイベントでの出し物をボランティア団体をお願いしたいという要望により、趣味・特技を活かした団体に講師登録いただき披露することや、学校からの総合学習として障がい者疑似体験の依頼に対して社協職員が講師として講座を行うなど、出前で実施する事業となります。

★取組みを行って

事業の名称を「スマイル届け隊」として、講師をリスト化し事業冊子を作成して配布を行いPRすることで、依頼件数が増加しています。

現在は、サロン活動や福祉施設のイベント、学校の総合学習での福祉教育の依頼が多く寄せられており、年間約70件の申し込みを受けるほど、事業化した効果が出ています。

【職場体験事業】

★取り組みについて

当法人では、専門学校や資格取得のための実習を積極的に受入し、学生の介護福祉士・保育士などの福祉資格取得・人材育成に貢献しています。受入にあたり、学生の施設での宿泊費や施設が提供する食事の費用はすべて無料として、各施設が自己財源で負担しています。

また、近隣の中学校や高校等で行われる福祉職場体験学習などの受入も積極的に行っています。当法人では、児童・保育施設、高齢者施設、障がい者支援施設を幅広く運営していることから、様々な学校からの体験学習等を受入として受け入れ、多くの福祉人材の育成に貢献しています。

★取り組みを行って

平成30年度は、旭川福祉専門学校や北海道介護福祉専門学校、札幌こども専門学校などから、延べ79名の実習生を受け入れ、宿泊費や食事代などはすべて施設で負担しました。また、職場体験等では、黒松内中学校や京極・泊中学校、倶知安小学校・農業高校、札幌学院大学などから、延べ216名を受け入れました。未来の福祉人材の育成と社会貢献事業として、今後もしっかりと取り組んでいきます。



社会福祉法人 旭川育成会 旭川市

【地域への公開講座実施（今年は栄養について学ぶ講座「ミルク教室」）】

★取組みについて

地域貢献の一環として、公開講座実施

【中高生職場体験受入】

★取組みについて

中学生・高校生の職業体験活動として、受入する。

★取組みを行って

中・高校生が、保育士の職種に対して理解を深められた。

【福祉教育活動】

★取組みについて

- 介護予防センター西野（札幌市より委託）で実施している“すこやか倶楽部”の中で、当施設（五天山園居宅介護支援事業所）のケアマネージャーが「介護保険制度の説明会」や「福祉用具の紹介（福祉用具の事業者に依頼）」等を開催。また、月1回、“すこやか倶楽部”に参加されている住民の方々の血圧測定の手伝い、及び茶話会にも積極的に参加。
- 民生児童委員連絡協議会の会合（月1回）に介護予防センター西野職員と参加し、介護保険制度についての質問を受け付け回答している。

★取組みを行って

母体の特養や居宅介護事業所の役割周知を図る目的で取組みを開始した。

元々“すこやか倶楽部”の血圧測定の手伝いに出向いていたこともあり、「もっと顔のみえる関係になれば！」と、本企画を立案し実施。

福祉用具の紹介では、実際に用具に触ってもらい、具体的な活用事例を提示、説明することで福祉用具の必要性等、深く理解してもらえた。また、今まで無関心だった人たちにも興味を持っていただくことができた。

【介護普及事業】

★取り組みについて

高齢者介護施設について、介護職員について、近年マスメディアでは悪いイメージばかりが先行していますが、高齢者介護に取り組む私たちがどのような仕事をしているか、どのような人たちが暮らしていて、働いているのかをもっと知ってもらいたい、施設に来て頂きたいという思いから、施設に来て頂ける学校を求めて学校訪問をおこなっていましたが、まずは自分たちが学校を訪問して、私たちのことをお伝えする機会を作れないかと考えたのがキッカケです。

★取り組みを行って

そういった呼びかけをする中で、普通科高校の家庭科の授業において「高齢者福祉」について学習する時間があるとのことのお話しを受けました。2 時限必ず実施しなければならないが、家庭科担当の先生も何をどう伝えたらよいのか困っているとのことでしたので、私たちにできる高齢者福祉についての授業を持ち込みで実施させて頂くことになりました。

○1 時限目（45～50 分授業 1 コマ）

パワーポイントを使用して、日本が迎えている高齢化社会とはどういうことか、どのような問題に直面しているのか、またそれは地域に暮らす私たちにどのような関係があるのかなどをまとめたものを説明。※30 分

・サザエさん一家が 30 年歳を取ったら？～自身の家族を介護しなければならなくなった時、誰が介護をするか～

・65 歳、75 歳はみんな介護が必要な高齢者？～芸能人など身近で知る 65 歳、75 歳の人から考える～ などのディスカッション、参加型の座学を実施。

合わせて、介護施設で働く私たちの体験談。どのようなキッカケで介護施設で働くようになったか。また介護施設に働く人は介護職員だけでなく、様々な職種の人がいること、人の生活そのものが、介護施設にはあること等を 5 分×3 名程度お話しをする。※10～15 分

これは、「自分たち中学生・高校生の将来＝地域で働く人たち」と思い描けていない学生達と、気持ちを共有できる時間になります。経験したことのないことは実感できないと考える中で、自分たちも中学生・高校生であった頃の話をする事で、自然と学生と私たちの気持ちがリンクします。将来について考えている学生、何かしら悩ましい事を抱えている学生とそれぞれの琴線に触れる部分があるようで、一気に学生との距離が縮まる時間であると実感しています。

○2 時限目

高齢者・障がい者の疑似体験をしてもらいます。ポイントは介護される側と介護する側の両方を体験してもらう事です。

- ・片麻痺体験：左右それぞれの手足の動きを固定する装具を装着してもらい、半身麻痺となった状態で歩行や階段の上り下りをしてもらいます。2人1組となり、もう1人は半身麻痺役の方の介助をしてもらいます。10分程度で交代

- ・車椅子体験：車イスを使用した移動介助を体験してもらいます。介助される側はアイマスク・耳栓を着用して、自身では移動できない状態になってもらいます。また介護する側は、平坦な道から段差の乗降までを実施してもらいます。どちらも初めての体験でとても恐怖を感じるようです。その中で相手がどう感じているかを考えながら行動（介助）する気持ちが芽生えます。10分程度で交代

各疑似体験において介護する側、される側になって取り組んでもらい終了します。

疑似体験の最後には「相手の気持ちを考えながら行動することは、その人、自分の生きやすさに繋がること」ということを申し添えます。高齢者福祉＝非日常の生活ではなく、どの人の生活も日常にあり、すべてどこかで繋がっているというふうに考えて欲しいと思っていることをお伝えします。

このような形式で学校を訪問する事を5年前から始めました。昨年度においては、高校4校、計18クラス（およそ700名）中学校1校、計3クラス（70名）にて実施。今年度は、高校5校、中学校1校にて実施中であります。活動の成果としては、参加された学生の皆さんの声です。

「介護施設は暗いイメージしかなかったけど、イメージが変わった」「自分が障がいを持ってこの先暮らしていかなければならないと考えると、本当に大変だと思った。そういう人をみつけたら、自分に出来る事をしたいと思った」「学校には障がい者の人が過ごしにくい場所がたくさんある。段差や扉の開き方などを障がいのある方に向けた作りにして欲しい」「介護施設で働く人たちの想いを聞いてカッコイイなと思った。自分も尊敬出来る仕事に就きたいと思った」

毎回、たくさんの声を届けてくれます。